今を生きている私たち、「生き方」を考える

　大和町　西寶寺　野田　惠光

□思い通りにならない苦しみを、受け入れて生きること

　「死」は誰にでも訪れる必然です。逃げられない死を「どう受け入れ、どう生きるか」が私たちに問われています。

　先日お亡くなりになった樹木希林さんは「私は今まで、この身体は自分のものだと思っていたけれど、借り物だという事が分かりました。今その借りものを返すんです。」と話されました。

　私たちは日常、自分の考えたように生きていくことが出来ると無意識のうちに思い込んでいるところがあります。しかし私は「賜った命」を生きているんです。仏陀は、生きることは苦の連続、「一切皆苦」であると説かれました。人が生きる上で避けて通ることができない「老・病・死」は決して自分の思い通りにならない事、人生の苦しみです。

　現実生活は悲喜交々です。私心にもとづく生活姿勢は、時に自身の生きざまを歪めていきます。人は、お金がたくさんあれば幸せ、健康な身体があれば幸せなどと考えてしまいがちです。幸せの基準を自分にとっての「良い・悪い」、或いは「損・得」で考えると、私さえ良ければ良いということになります。本当に人として生きる大切なことは「真実か虚偽か」という視点で自分と向き合い、常に問い続けていくことです。

　すべての現象は「因縁生起」です。直接の原因、間接的条件によって、物事が起こってきます。しかし善因善果ではありません。善い原因があるから、善い行いをしたから、善い結果に繋がるとは言えないのが現実です。むしろその逆のことが多いのではないでしょうか。どのような結果であっても、それをわが身の事実として受け入れ、真摯に自分と向き合っていくことが、私のありさまに気づけることだと思います。